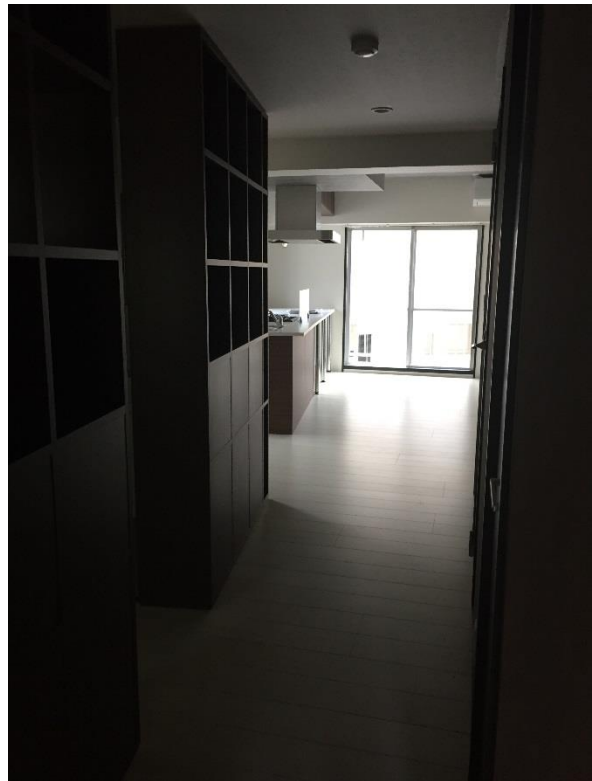


# グレイスハイツ台原



# 小田原深松マンション



深松組

## 大規模改修 学生プラン採用

### 現実的コスト・発想を評価

深松組(仙台市青葉区、深松 努社長、0222・271・9211)は、保有賃貸物件の大規模改修(リノベーション)で東北工業大学の村山早紀さん(建築学科4年)らの学生グループが設計した物件の施工は同社として初めて。

東北工大の村山早紀さん(建築学科4年)らの学生グループが設計し、約600万700万円をかけて同社が施工した。

今回の取り組みは、同大の授業「設計デザイン」で9グループがプランを提出して、深松組が選定した。

深松組は「コストも現実的で、新しい発想があった」と評価している。設計した村山さんは「床や壁の色合い、棚の配置に苦労したがイメージ通りになった」と話している。

(仙台)



▲設計を手がけた村山早紀さん  
Ⓞと工藤拓海さん

東北工業大  
学と深松組  
(仙台市・深  
松努社長)が  
昨年11月に実  
施した「都市  
建築提案20  
16」のマン  
ション・リノ  
ベーション事  
業で入選した  
作品が仙台市  
青葉区小田原  
8丁目の「小田原深松組  
マンション406号室」

「小田原深松組マンション」リノベーション事業  
内装・設備のリニューアル完成  
東北工大・建築科3年生提案を実現



で採用され、内装・設備  
のリニューアル完成披露  
が行われた。  
都市建築提案では、マ  
ンション物件を対象に住  
まい方のリノベーション

についてコンペ方式で行  
われ、最優秀に選ばれた  
2作品を深松組が所有す  
る小田原と台の原のマン  
ションで、リノベーション  
事業として実現した。  
小田原マンションは、  
建築科3年生9グループ  
から選ばれた工藤拓海  
君、村山早紀さんら5人  
の作品で、30代前後の単  
身女性を想定して1DK  
33平方メートルの部屋を、アイ  
ボリーの内装に統一。複  
数の箱型を組み合わせた

飾り棚を配置し、利用者  
の好きなレイアウトが出  
来るように配慮するとと  
もに、入り口ドアを開け  
ると対面する台所との仕  
切りに開口部を設けタス  
トボックスの収納を自在  
にできるようにした。

リノベーションの完成  
まで数回足を運んだ提案  
者の工藤君は「イメージ  
通りの作品でコンセント  
などの配置にも苦労した  
甲斐があった」、村山さ  
んは「同世代を想定して  
イメージをふくらませた  
が、完成作品をみて、自  
分が住みたいくらい」と  
満足げに語った。

深松組の山路貴彦賃貸  
事業課長は「築29年とい  
う物件で、全体的なりノ  
ベを行ううえで参考にな  
る提案。我々には気がつ  
かない細かな配慮に驚か  
された」と今回のコンペ  
実現の意義を高く評価  
した。

深松組（深松努代表取締役社長）が協力する、東北工業大学のリノベーションプロジェクトで、学生がデザインしたリフォーム後の物件が21日、披露された。同社スタッフとの打ち合わせを重ね、2LK46㎡の部屋は斬新で開放的な空間に改修された。

同プロジェクトは、人材育成を推進する国の地方創生推進事業（COC+事業）の一環で、深松社長が生き残る教材として青葉区の空き物件を提供。建築学科の学生らがデザインし、同社リノベーション担当の社員が改修工事を行った。

披露された物件は、大学

東北工大リノベーションプロジェクト

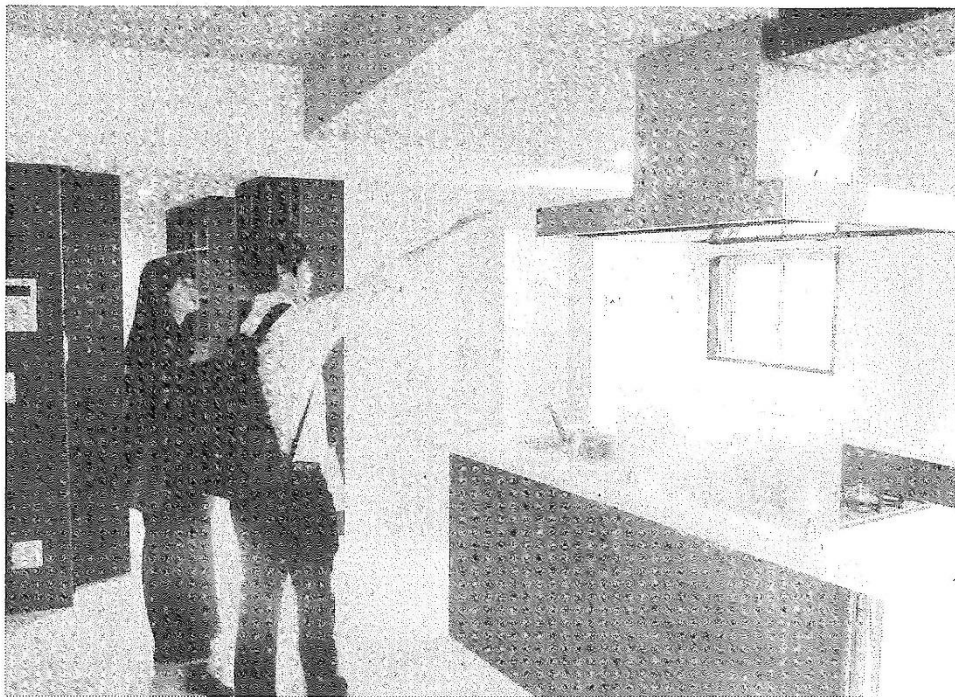
# 深松組が全面協力

院生の佐藤未和さん（24歳）の作品で、対面型キッチン

を配置した斬新さが特徴。同社は4月初旬に内部を解体し、壁のクロス張りや平面図と実際の構造の仕組み

## 学生デザイン改修完了

を見せながら打ち合わせを重ねた。5月末に完成した。



排気設備の設計内容を説明する設計積算課の阿部氏（右）

佐藤さんは「対面型キッチンの採用に、排気設備のことまで考えが及ばなかった。勉強になった」と振り返った。同社設計積算課の阿部颯介氏は「学生のデザインを最大限生かすよう指示を受けた。設計し具現化する過程は大変楽しかった」と話した。

同大学の齊藤成一氏は「実践的なカリキュラムの経験は学生にとって大変貴重」と同社の支援に感謝の言葉を述べた。今後同社や建設企業と連携し、地元での人材育成に取り組む。